阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン

第2回プロジェクト統括会議

議事要旨

開催日時	令和6年10月29日(火)	17:00~18:50
開催場所	ブリーゼプラザ 8階	
出席者	大阪公立大学(医) : 金田、渡邊 大阪公立大学(看) : 田中京、林田、徳岡、田中誠 神戸大学(医) : 村上、金原、浅野 神戸大学(保) : 秋末、副島、山田 関西医科大学 : 金子、谷川、出口、加藤 兵庫医科大学 : 廣田、栗林、有田 近畿大学(理) : 中野、西郷、木下、山田 近畿大学(情) : 井口、半田、木村、宮内 近畿大学(医) : 松村、西尾、中川、林、福岡、高濱、松尾、門前 土井(生)、西上、大目、辻井、猪川、小森、清水、 森口、宮口、土井(教)、河村、神田 (敬称略)	

【あいさつ】

近畿大学 松村 到 学長より、あいさつがあった。

続いて、各連携大学の統括会議委員よりあいさつされた。司会の福岡先生より大阪公立大学医学研究科長 鶴田先生は、年1回の大学全体の重要な会議のため欠席になったことが説明された。

【議事】

1) 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン概要について

近畿大学医学部 林先生より昨年との違いや本年度の取り組みについて説明を行った。がんプロオンライン教育は筑波大学の開発したシステムを使い、大学院の一年目にオンラインで30講義を受講することが可能となる。続いて、本年2月に行われた第1回がんプロ研究シンポジウムの報告を行った。第3期まで英語で行われていた国際シンポジウムの発表言語を日本語に変えたことで、医療従事者が参加しやすくなり、159名が参加するに至った。がんプロ研究シンポジウムは、がんプロ大学院生が口演とポスターで研究発表を行い、優秀者は表彰されることが決定しており、来年2月1日に第2回を開催する予定である。最後に、模擬患者と連携した、チームによるがん患者の意思決定支援演習(SP演習)と地域でがん患者の治療サバイバーケアを支える為の事例検討演習(CS演習)の報告を高濱先生が行った。【資料1】

2) がんプロオンライン教育(e-learning)

近畿大学医学部 高濱先生より、がんプロオンライン教育の講義内容と共通特論からこれまでの流れを説明した。筑波大学にアカウント作成と登録を依頼し、既受講が始まっている。今年度中に単位認定をすることになるが、現在筑波大学と共同して受講確認や成績の管理を行っており、フィードバックが出来るように準備を進めている。今年から始まったプロジェクトなので、不具合等があればがんプロ事務局まで連絡をするよう依頼した。【資料2】

3) 各 TF の状況について

<TF1：医療現場>

近畿大学医学部 高濱先生より、TF1「医療現場」の課題と実施体制・正規コースの一覧について説明があった。続いて「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン・次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン・日本腫瘍循環器学会・国際腫瘍循環器学会日本支部・近畿がん診療推進ネットワーク」共催のがんプロ腫瘍循環器セミナーの開催報告があった。

緩和ケアをテーマとした「阪神がんプロ 緩和ケア領域 ワーキング」（2024年11月予定）の告知と、10月12日に行われた大阪がん医療セミナー2024の開催報告があった。最後に「imNET5」の現状の報告と第4回「imNET5」を今年度中に予定している旨説明があった。【資料3-1】

<TF2：予防医療>

大阪公立大学 金田先生より、TF2の「予防医療」の4項目の目標とそれらを8つに細分化した各大学での活動内容について説明があった。

大阪公立大学医学部は先端予防医療部附属クリニック MedCity21における健診受診者を対象としたバイオバンクの拡充を手掛け、健診データベースの整理と研究を行っており、昨年度より検体数が増加していることが報告された。

近畿大学情報学部で「バイオインフォマティクス等のデータ解析専門家育成」を掲げ、情報学研究科情報学専攻（仮称）の設置（令和8年度予定）に向けて準備中であることが報告された。

近畿大学理工学部では、「遺伝カウンセラー養成課程」で合格者もでていと発表された。

また、大阪公立大学大学院看護学研究科ではがん看護講演会〜がんと共生を支えるアピアランスケア〜のシンポジウムに外部講師2名を招聘して実施したことが報告された。兵庫医科大学医学部では多角的なサバイバーに対するケアを学ぶシンポジウムを予定しており、大阪公立大学医学部は「第1回医療ビッグデータを用いたプログラミングワークショップ」を企画している旨報告された。【資料3-2】

<TF3：研究開発>

神戸大学 南先生の代理で、神戸大学大学院医学研究科 金原先生より TF3 の発表があった。

TF3「研究開発」では、「新たな治療法を開発できる人材の養成」をTF3のミッションとし、克服すべき課題を説明された。さらに2023年度TF3の活動実績と評価について述べ、TF3の課題解決に必要な人材育成の取り組みについて説明された。2024年10月2日には2024年度第1回TF3委員会を実施し、5大学9学部の各代表者で事業の検討と取組の進捗状況を議論したことが報告された。

連携大学共同プロジェクトの進捗報告としては、エキスパートパネルの効率化、AIの活用をテーマとしたセミナーを企画し、2025年2月8日に開催予定である旨報告された。【資料3-3】

4) 各大学の取組報告(5大学9学部)について

【近畿大学医学部】林 秀敏

11月よりimNET5とがんプロ研究シンポジウムを担当していた川上先生が東北大学・腫瘍内科に栄転となり、組織体制に変化があった為、高濱先生が引き継いでいると説明した。近畿大学医学部ではがんプロHPの内容を充実させたため、シラバスを閲覧して入学希望者がいたり、がんプロ研究シンポジウムの演題募集をすることが出来るようになったりしたことが報告された。

来年度の入学者については既に病理医 1 名の予定があると報告した。神戸大学の南先生からお話を頂いて 8 月 2 日開催された腫瘍循環器セミナーでは、参加者が現地 34 名、WEB 104 名となり、腫瘍循環内科の著名な Javid Moslehi 先生 (UCSF) により英語で講演が行われ、貴重な学びの機会を得たと報告された。【資料 4-1】

【近畿大学理工学部】西郷 和真

TF2 のテーマである「がん予防医療」について、運営している 2 コースの説明をした。

近畿大学大学院理工学研究科では、がん予防のために遺伝性腫瘍に注目し、遺伝子解析のできる遺伝カウンセラー養成に力を入れているため、がんゲノム医療と即戦力の遺伝カウンセラーの養成を目標にしていることが報告された。

遺伝カウンセラー養成課程は 2024 年も 3 名が入学し、多職種がん医療人養成コース (インテンシブコース) には 15 名が入学した。また遺伝カウンセラー認定資格 3 名、臨床遺伝専門医 2 名、遺伝性腫瘍専門医 1 名の合格者実績が報告された。【資料 4-2】

【近畿大学情報学部】半田 久志

近畿大学病院エキスパートパネルにおける C-CAT レポートの生成の DX 化をすすめており、2 月の TF3 のシンポジウムで講演を行う予定であることが報告された。また、TF2 での大阪公立大学との共同研究としてバイオインフォマティクス面での協力を予定していることも報告された。また、情報学研究科情報学専攻 (仮称) の設置を令和 8 年度予定していると説明があった。【資料 4-3】

【大阪公立大学医学部】金田 裕靖

大阪公立大学医学部には、8 つのがんプロのコースがあり、今年度は 4 名の入学となった。

セミナーは Medcity21 医学講座を年 5 回、患者及び医療従事者に対する情報提供、啓発のために日曜セミナーを年 3 回行っていることを報告された。

緩和ケアは大阪公立大学緩和医療研究会を開催し、第 1 回ビッグデータを用いた「がん予防医療国際シンポジウム」、次世代のがんプロフェッショナル養成セミナーや、大阪腫瘍病理セミナーも行っていることも報告された。【資料 4-4】

【大阪公立大学大学院 看護学研究科】林田 裕美

大阪公立大学大学院看護学研究科の教育課程 (正規課程・インテンシブコース) のコース内容と取組が説明された。インテンシブコースは 2 つあり、コースの内容と、10 月 6 日開催されたがん看護講演会ではがん患者が社会の中で QOL を最善の状態に維持していくためのアピランスケアのあり方について講演が行われ 70 名の参加があった旨報告された。【資料 4-5】

【神戸大学医学部】金原 史朗

金原先生が南先生の代理で報告された。神戸大学のがんプロ組織図と正規課程コース・インテンシブコースにおける現在の受け入れ状況について報告があった。神戸大学で行われたセミナーは 2 つあり、9 月 27 日開催「第 25 回 関西がんのリハビリテーション研究会」には PT を中心に 131 名が参加、8 月 5 日開催ミネソタ大学血液腫瘍内科より Anne Blaes 教授を招き、医師を中心に 73 名の参加があったことが報告された。【資料 4-6】

【神戸大学医学部保健学科】副島 堯史

がんプロフェッショナル（がん看護）養成コースを本年4月より開講し、受入目標人数（1名）を満たす人数を確保したことが報告された。大学院での講義・演習の説明と、来年2月にTF2に関連して「がん患者がそのひとらしく生き、逝くための在宅移行支援」をテーマとするセミナーが開催予定であることが報告された。【資料4-7】

【関西医科大学医学部】谷川 昇

現在のがんプロ大学院生の人数と、コース内容について説明された。今年度のがんプロセミナーは既に6回開催され、12月21日にも第12回QOL-PRO研究会学術集会の開催が予定。関西医科大学ではがん教育講師の派遣を行っており、7月4日に大阪府立北かわち阜が丘高等学校で講演テーマ「知ってこ がんという病気」で緩和ケアセンターの看護師が講演を行い、1月29日に寝屋川市立第九中学校でも講演が予定されている旨報告された。【資料4-8】

【兵庫医科大学医学部】栗林 康造

兵庫医科大学は、6コース・8名の在籍者がおり、来年度はがん免疫療法・ゲノム医療の実践・応用・新規開発のできるプロフェッショナルな多職種医療人および研究者養成コースに2名の入学者を予定していることが報告された。2022年より兵庫医科大学は医系の総合大学（薬学部・リハビリテーション・看護学部）になったため広く募集をかけていきたいと説明があった。また、今年度はimNET5をはじめ2つのセミナーを開催し、さらに2つのセミナーの開催を予定である旨報告された。【資料4-9】

5) 特定非営利活動法人 近畿がん診療推進ネットワークについて 理事長 中川 和彦

主な事業内容について説明された。続いて、がん対策基本法に基づく、がん専門医療人材育成事業への支援、及び人材育成事業と2024年度の寄付金の推移について説明した。寄付をする製薬会社も減り、全体の寄付金額が2022年以降減少している実情について報告がなされた。

ただ、過去に文部科学省が助成金を打ち切った際、がんプロ事業に対して補助することができたのも寄付のおかげであり、今後の不慮の事態に備えて繰越金を一定金額維持することが重要だと説明がなされた。

最後に前回の統括会議では沢山の意見を頂いたが、引き続き名案があれば、ぜひ意見を出してほしいと呼びかけた。【資料5】

【総合討論】

Q:近畿大学医学部 林先生

近畿大学では薬剤師を対象としたコースの学生募集が進んでおらず、神戸大学(薬学部薬剤師研究プログラム)、関西医大(創薬)、兵庫医大(今後学部と合併)における薬剤師を対象としたがんプロの取組について意見を求めた。

A:神戸大学 金原先生

薬学部とCRC(臨床研究コーディネーター)のコラボレーションが基盤となる環境がある。神戸大学は薬剤部の薬剤師が入学されている。薬剤部のエフォートの問題は無く良い関係性がとれている。

A:神戸大学 村上研究科長

神戸大学は薬剤部の上層部は教授、准教授などの教職である。薬剤部の上層部を教職に変えると費用はかかるが、研究によってプロモーションも出来るのでよいのではないか。

A:兵庫医科大学 栗林先生

2022 年から医療系総合大学となり、各学部間の連携が模索中である。がんに興味を持った学生・職員をより一層育成できるように取り組みたいと考えている。

A:兵庫医科大学 廣田医学部長

学部間の協調・協力はこれからよく考えていきたいと述べられた。

A:近畿大学 松村学長

薬剤師のがんプロ参加に関連して、学長の立場からコメントされた。全学的プロジェクトだからといって相手に自己犠牲を押し付けてはいけないこと、相手側のメリットが見いだせるようなプランを出せて初めて対応が可能となることを理解してもらいたい。

Q: 関西医科大学における新薬開発センター設置について NPO 中川和彦先生

関西医科大学において新薬開発センターを開設予定と聞いている。がんプロの掲げる、薬剤開発できる研究者の育成と密接に関わると考える。非常に良い機会であり、今後がんプロに組み込むことは可能かと質問された。

A:関西医科大学 谷川先生

11 月より国際がん新薬開発センターを開設するにあたり、これから動き出したらぜひ参加させていただきたい。

(文責：近畿大学医学部)